

# 中美研会報 No. 148

2024.3.1 中越美術教育研究会 事務局／長岡市豊詰町227 長岡市立上組小学校 〒940-1142 ☎(0258)22-0959

## 今年度の活動を振り返って

中越美術教育研究会 会長  
目黒 由美



アートの奥深さ、おもしろさを味わうことを、より多くの人たちと分かち合うことができた、充実した1年であったと、振り返ってみて感じています。今年度は感染症対応のための行動制限が緩やかになり、当研究会も対面による活動に重きを置いて、研究部、美術振興部（展覧会委員会、広報委員会）、教職員展部がそれぞれに、多くの人たちが直接的な交流を図ることで造形美術教育の振興を目指そうと、運営してまいりました。

8月には、第56回夏季研修会を、来年度本大会となる、新潟県美術教育連盟研究大会のプレ大会として開催しました。ここでは、長岡市出身の新進気鋭の若きアーティスト2名を迎え、新鮮な風を吹き込んでもらいました。実技を含め、広くアートについて語っていただきながら、これからの図工・美術教育について、参会者の皆様とともに考える意義ある研修となりました。お二人の小・中学校時代には、当研究会のメンバーも教員としてかかわっていたり、当研究会が主催する中越教育美術展に出品した思い出があったりと、興味深いエピソードも聴くことができました。

長岡造形大学を会場に参集型の研修会として実施いたしましたが、来年度の本大会も、顔と顔を合わせ、言葉を交わし合い、互いの実践に学ぶ、活力あふれる研修会を目指しています。プレ大会後、本大会をより充実したものにしようと、研究部は熱い思いをもって準備に励んでいます。上・中・下越の各地区からの多数の参会者をお待ちしています。

11月の関プロ埼玉大会では、当会の会員が、生徒会の活動に共同作品制作を組み入れることで、豊かな生活の創出へとつなげた実践を発表し、他県からも注目を集めました。

11月から12月にかけての第59回中越教育美術展には、県内各地から18,420点の作品応募があり、第1次審査会、第2次審査会と厳正なる審査を行いました。作品は躍動感あふれる力作ぞろいでした。コロナ禍にあって制限されていた活動が再開されたり、直接的な関わり合いが活発になったり、子どもたちの日常生活が五感を働かせて、のびのびとしたものになっていることが伝わってきました。また、子どもたち一人一人が納得いくまで表現することに寄り添う指導者の姿も見えてきました。2次審査会では、作品を通して、大学の先生方と熱く言葉を交わす時間もありました。子どもが全力で描き切った作品に、真摯な心で丁寧に向き合わなければならないことを重ねて心に刻む、貴重な研修の場ともなりました。

1月には、長岡市美術センターを会場に、受賞作品の展覧会を開催しました。4年ぶりとなる作品解説会も行い、魅力あふれる作品の数々をより深く鑑賞してもらうことができたことは、喜ばしいことでした。

1月から2月にかけて、教職員美術展を開催いたしました。ご退職された皆様や小・中・高の教職員の方々の力作およそ60点を展示し、一般市民の皆様から鑑賞いただきました。今年度は、新たな若手教職員の出品もあり、次代への希望も膨らみました。現職が創作活動に取り組む姿勢は児童生徒の豊かな学びにつながるものであり、来場者の皆様から、これからもぜひ活動を継続してほしいとの励ましのお言葉もいただいています。

3月には、「中越教育美術展作品集 第33集」を刊行し、この「会報」を発行しました。

会員の皆様のご尽力のお陰で、充実した取組ができましたことに、心からお礼申し上げます。

事業の開催に対し、新潟県教育委員会や長岡市教育委員会からのご後援、また新潟日報社、報道機関各社、新潟県教職員厚生財団、日本教育公務員弘済会新潟支部よりご援助をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

## 令和5年度 中越美術教育研究会 事業内容

### ●第1回 理事会

・令和5年6月7日(水) 上組小学校  
会務決算報告・予算事業計画審議等

### ●「第56回 夏季研修会(第35回 新潟県美術教育連盟研究大会(プレ大会))」

・令和5年8月9日(水)  
長岡造形大学

### ●第1回 美術振興部会

(中美展委員会・広報委員会)  
・令和5年8月30日(水) 上組小学校  
審査会計画・作品集・会報原稿依頼等

### ●中越美術教育研究会会員の実践発表

・令和5年11月17日(金)  
附属長岡中学校(オンライン)  
第62回関東甲信越静地区造形研究大会兼 第35回新潟県美術教育連盟研究大会において 第4分科会 Life 実践発表  
発表者 池田 義広 新潟大学附属長岡中学校  
記録者 鰐淵紀美子 三条市立旭小学校  
助言者 飯田美輝夫 糸魚川市立根知小学校

### ●中美展一次審査会

・令和5年11月22日(水) 上組小学校  
審査員29名

### ●第2回 中美展委員会

・令和5年11月22日(水) 上組小学校  
展示・解説会等計画

### ●中美展二次審査会

・令和5年12月1日(金) 上組小学校  
群馬大学 教授 林 耕史 様  
新潟大学 教授 田中 咲子 様  
東京学芸大学 准教授 西村 德行 様

### ●第2回 広報委員会

・令和5年12月1日(金) 上組小学校  
中美作品集計画

### ●「第59回 新潟県中越教育美術展」

・会期 令和6年1月12日(金)～14日(日)  
長岡市美術センター(中央図書館)  
・1月14日(日)作品解説会

### ●「中越教職員美術展2024～第29回～」

・会期 令和6年1月31日(水)～2月4日(日)  
長岡市美術センター(中央図書館)

### ●第3回 広報委員会

・令和6年2月9日(金) 上組小学校  
中美作品集の校正

### ●第4回 広報委員会

・令和6年2月16日(金) 上組小学校  
中美作品集の校正

### ●役員会

・令和6年3月14日(水) 上組小学校  
各事業の反省と次年度への提言

### ●「第59回 新潟県中越教育美術展・作品集」刊行

・作品集 第33集 発行  
・中美研会報 148号 発行



# 令和6年度 夏季研修会(第35回 新潟県美術教育連盟研究大会 本大会)のお知らせ

## 「TSUNAGU」～学びをつなぐ図工・美術教育の可能性～

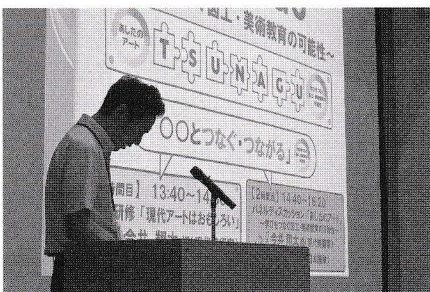
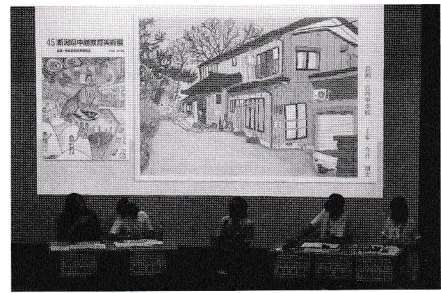
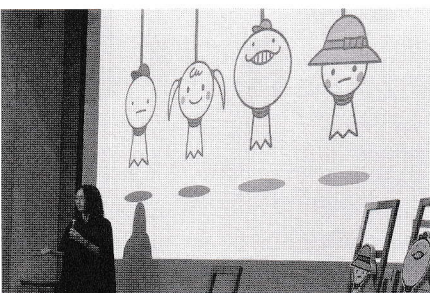
プレ大会の成果と課題をもとに、「学びをつなぐ図工・美術教育の可能性」について、参加者全員で、さらに学びを深めます。

1時間目は、実践発表です。上中下越の代表からの発表に加え、前回の中越大会でも好評だった「造形 五十市」を行います。長岡の街に多くの店が並ぶ市を「五十市」といいます。この「五十市」のように、一つのフロアにたくさんの実践と実践者が並び、ポスターセッションを行います。参加者が、たくさんの実践に一度に触れることができ、実践者と直接交流もできるところが「造形 五十市」の楽しいところです。

2時間目は、パネルディスカッションです。プレ大会のパネリストである今井様、本田様に加え、廃材再生師としてご活躍の加治聖哉様をお招きします。パネリスト、コーディネーター、参加者の考えをつないだり、対話によりつながり合ったりしながら、図工・美術教育の可能性や「あしたのアート」のヒントを見い出します。

プレ大会以上に充実した会にしますので、ぜひ、ご参加ください。

**あしたのアート** **本大会について** **TSUNAGU**  
 ～学びをつなぐ図工・美術教育の可能性～  
**あしたのアート** **T S U N A G U** **学びをつなぐ 図工・美術教育の可能性**  
 令和6年8月5日(月) 13:00～16:40  
 見附市文化ホールアルカディア(予定)  
 【1時間目】学びを「TSUNAGU」実践発表  
 実践発表① 上・中・下越の代表  
 実践発表② ポスターセッション  
 「造形 五十市(ごとおいち)」  
 【2時間目】パネルディスカッション  
 「あしたのアート」  
 ～学びをつなぐ図工・美術教育の可能性～  
 今井 翔太 様(現代美術家)  
 加治 聖哉 様(廃材再生師)  
 本田 貴哉 様(日本画家)



## 美術教育への希望

現代美術家 今井 翔太



今大会の実技研修「現代アートはおもしろい」にて講師を務めさせていただきました。このような場にお呼びいただいたことに深く感謝すると共に、教育現場の外から教育に携わりたいという兼ねてからの一つの目標に近づいたことに大きな喜びを感じ、緊張を胸に登壇させていただきました。大会テーマが図工・美術教育の可能性ということで、前半は「現代美術とは何なのか」という説明を教育現場では意識しないような視点から説明させていただきました。後半は「美術の根幹の再認識」を念頭に置いた実技研修を、ねりけしを用いて実施しました。

現代美術とは何なのでしょう。それは、一つの教科として教育現場に求められる図工や美術の側面だけで考えると理解するのが非常に困難だと思います。なぜなら、現代美術は現代社会の中で様式が日々変化し続けているからです。テーマや素材、形式や思想、科学技術やそれに伴って社会が変化する中で「芸術とは何か」という問いを自らに課したのが現代美術の発端であり、それは芸術という枠の中でしか生まれ得ない問いです。その問いへの探究や現実社会への還元が、現代美術を理解する上での大きな一歩になります。それを学校教育では教えることが難しい。現代美術を理解するということは、そのコンセプトや内容を理解することを意味します。日本という国で美術教育を受けていく中で、または一つのメディアとして現代美術が機能している場面はそう多くはありません。資本主義社会に争いながら、それでも共に機能していく世界の美術の行先を、美術教育においてどのように捉えていくかが重要だと考えます。

上記の問いに対する私自身の実践は、現在取り組んでいる「ごみ袋のごちゃ」や「Telu Telu Boy」といったキャラクター作品に現れています。単なるデザインとは異なる、これまでの美術の変遷を踏まえた上での現代美術作品としてのキャラクター表現の提案を、是非一度ご高覧いただければ幸いです。

実技研修では、私がアイルランドに留学していた際に体験したものを再構成しました。美術史を改めて見つめ直した上で、作品制作を気負わずに行える「ねりけし」という素材を用いて表現、そして他者と共有するという関係性に焦点を当てた実践です。一見すると何も変哲のない、普通の造形遊びに見えるかもしれませんが、美術史を丁寧に取り扱った上で、時代に合わせて先人たちがどのように美術を紡いできたかを理解した後に行う表現は、いつもと違った景色を提示したのではないかと思います。また、教職に携わる方々には改めて「関係性」を生む美術の意義を体感し、見つめ直す契機になればと思います。

実技研修後のパネルディスカッションでは、私の中学校時代の美術の先生、大学時代の教育実習の先生と共に登壇させていただきお話できたことは幸甚でした。美術教育が一人の生徒に与える影響の大きさを実感いただけたのではないのでしょうか。中学校時代に中越教育美術展で特別賞を受賞した際の作品やエピソード、そしてそれが人生にどのような影響を与えたのかを芸術家を志した理由やきっかけと共にお伝えすることで、自分自身でも教育の力を再認識する機会となりました。大変有意義な時間で、来年の新潟県美術教育連盟研究大会の本大会では時間の制限で共有することのできなかった話題にも触れられたらなど、今から期待しています。

美術教員を一度は志し諦めた身としては、学校における造形美術教育に期待するというのは無責任なことと感じられますが、それでも、学校現場の外から教育に携わりたいという念を抱いている身として「子どもたちが自分の思いを抑圧されず、裸になれるようなアート体験をしてほしい」と述べました。これまで記述したような、美術の意義を教育の場に落とし込むためには、現在の常識や枠組みから逸脱し、物事を客観的かつ広い視野で見つめ、視座を高めて世界を捉えることが重要であると考えます。それは、子どもたちに限らずそれを導く立場である教職員の方々にこそ必要な態度です。今後益々 AI や科学技術が発展し、シンギュラリティを前に予測不能な時代の変化に拍車がかかります。情報が溢れるその渦中で、取舍選択し、新しい時代を切り開いていく。教育者が時代や社会を俯瞰した上でのアート体験、子どもたちが裸になれるようなアート体験は様々な価値観を認め合い、多様性を尊重する世界の未来の一端を担うことができるのではないのでしょうか。人間による不条理な事象の情報が乱立する現代ではありますが、そういった社会問題への関心も美術は大きな窓口となり得ます。単に表面上の造形表現にとどまらず、目に映らないことに意味を乗せ、各々が意味を読み解き見出せるような豊かな教育が実現することを願っています。

## パネリストとして参加させていただいて

日本画家 本田 貴哉



この度は、第35回新潟県美術教育連盟研究大会（プレ大会）兼、第56回中越美術教育研究会夏季研修会にパネリストとしてご招待いただき、誠にありがとうございました。

現在、私は地元・長岡を拠点に日本画家として活動しています。幼いころから絵を描くことが好きで、高校卒業後、金沢美術工芸大学に進学し大学院を含め6年間日本画を学びました。主に日常の風景をテーマに日本画を制作しています。日々生活を送る中で、何の変哲もない日常の風景にふと、既視感やノスタルジーを覚えることがあります。それは自身のさまざまな記憶や思い出と、普遍的な景色が結びつくことでそう感じさせるからではないかと考えます。その日常の風景が持つ魅力を作品として描くことを目指しています。

作家活動をしていて、しばしば「作家は孤独である」という言葉を思い出すことがあります。構図を一つ決める度に自問自答を繰り返し、作品の出来のよし悪しを判断し、世に発表するのも全て自分で考えて決断しています。このことから、自分と向き合い続けるばかりで創作活動と他者との繋がりというものに関しては、なかなか実感しづらいように感じました。

しかしながら、この度図工・美術教育の可能性について考える機会をいただき、これまで続けてきた制作や経験が社会と繋がっている実感を得ることができました。

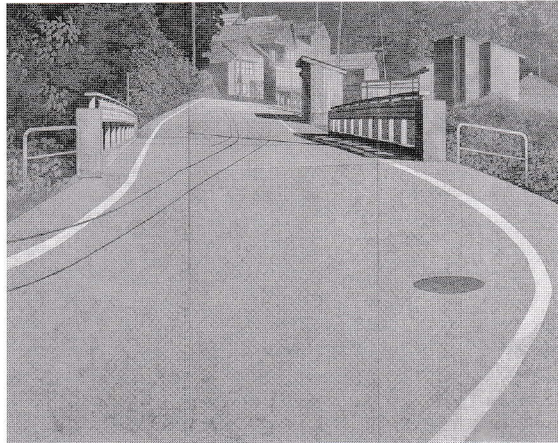
また、この度の研究会では中学時代の美術の恩師と再会することができました。当時、勉強と部活動に明け暮れる日々でしたが、特に楽しみにしていたのが美術の授業であったことを思い出しました。大人になった今も、幸せなことに創作活動を続けることができます。きっとその時に育んだ作ることへの喜びが今の自分につながっているのではないかと、と自身と美術教育との関わりについて思いを馳せる良い機会となりました。

さて、パネルディスカッションの際にもいただいた「学校における造形美術教育に期待することは？」という問いに対して、私の考えは「子どもたちの経験の引き出しを増やすこと」です。

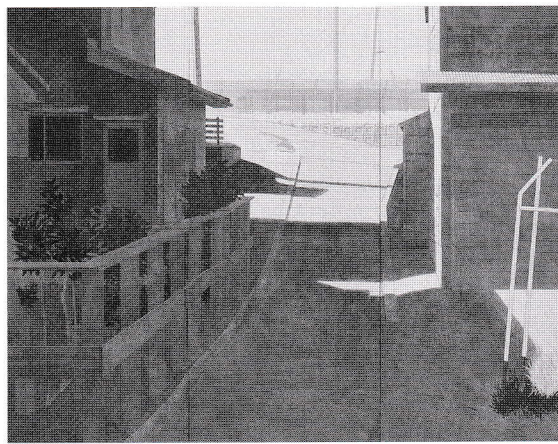
図工や美術の時間を通じて、作り手の意図に迫ることや、目的やテーマに沿って物事を組み立て構成すること、モチーフの観察から気付きを得ることなど、多くのことを経験・学習することに大きな価値があると感じています。そこで得た経験や学びは子どもたちにとって、目まぐるしく変化していく現代社会を生きるうえで重要な財産となるのではないのでしょうか。「知っている」、「あの時やったことがある」の引き出しが増えることで、将来思わぬ選択肢が出てくることもあるかもしれません。

今後、子どもたちの「経験の引き出し」が増えることで、更に豊かな未来の創造につながることを願っています。

この度は大変貴重な経験をさせていただき感謝申し上げます。



「なつのひ」



「午後」

## 第62回関東甲信越静地区造形教育研究大会 兼 第35回新潟県美術教育研究大会における実践報告

新潟大学附属長岡中学校 池田 義広

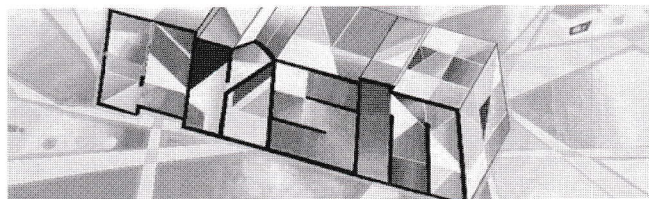


- 1 大会テーマ 「造形教育の新天地！ワイワイ埼玉 Artlearntis」
- 2 期日・会場 令和5年11月17日(金) 9:30～16:50  
 全体会：川口総合文化センター・リリア  
 公開授業：川口市立船戸幼稚園, 川口市立元郷南小学校  
 川口市立南中学校, 川口市立高等学校
- 3 当日の日程
  - (1) 全体会 (動画視聴)
    - ・開会の言葉
    - ・主催者あいさつ
    - ・記調停案
    - ・ご挨拶
    - ・大会宣言
    - ・全体会閉会の言葉
  - (2) 分科会 ①Spring ②Play ③Create ④Life ⑤Wonder ⑥Link ⑦Flying の7分科会で実践発表
- 4 実践発表 分科会④ Life (豊かな生活づくり)にて, 中越美術教育研究会会員の実践発表
  - ・発表者 池田 義広 新潟大学附属長岡中学校
  - ・記録者 鰐淵紀美子 三条市立旭小学校
  - ・助言者 飯田美輝夫 糸魚川市立根知小学校

### 5 実践紹介

#### ■ 提案発表内容の要旨

本題材は令和4年度中学校3年生118名を対象とし、生徒会スローガンの横看板デザイン及び共同制作を行う学習活動である。生徒会の活動を表現の中心テーマにすることで豊かな生活づくりにつながる実践となった。750mm×3650mmの大きなサイズの商品制作(資料1)は、生徒達にとって初めての活動であったが、イメージを膨らませるために必要な手立てを講じることで主体性や創造性を発揮し、豊かな表現活動を行うことができた。



【資料1 完成した『Prism』デザイン共同作品(一部)】

#### ■ 題材の内容

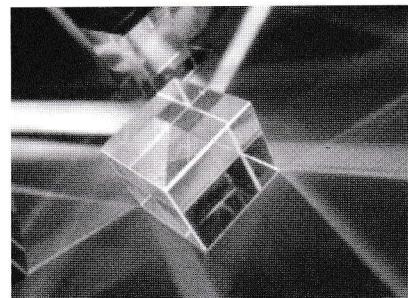
- (1) 題材名「学友会スローガン『Prism』横看板作成プロジェクト」(全9時間)
- (2) 題材の内容(授業実践)

##### ① 題材との出会い(1時間)

本題材で取り上げている学友会(生徒会)スローガン『Prism(プリズム)』は、生徒が自ら掲げた生徒会の目指す姿を表した言葉である。導入時は、生徒総会で示された『Prism』に込められた意味(全校生徒の意見を集約し、新たな取り組みとして発信する)を再確認・共有した後、3年生全員でスローガンをデザインし横看板として共同制作をすることへの意欲を高めた。

##### ② プリズムの鑑賞と表現の試し(1時間)

表現のヒントにするためにキューブプリズムの光を鑑賞した(資料2)。また、制作時に活用するマスキングテープを用いた技法の試作を行い表現の可能性を試した。これらは、後のデザイン案の作



【資料2 キューブプリズム】

成に生かされるものになった。制作時のイメージが分かることで表現の可能性や共同制作時の制作工程を意識したデザイン作りが可能になると考えられる。

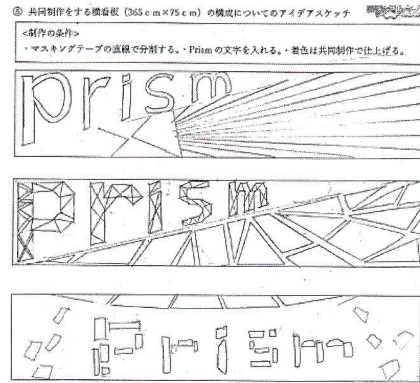
③ デザイン案の作成（2時間）

デザインの発想を促すためにワークシートを用いて、イメージを言語化してからアイデアスケッチを数パターン作成した（資料3）。アイデアスケッチでは、言語化したイメージを試行錯誤しながらデザインしていった様子分かる。

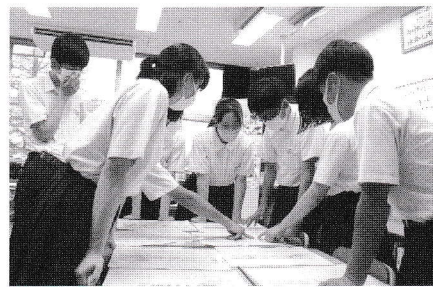
④ デザインコンペノミネート作品の選出（2時間）

デザイン決定へのプロセスは、「個々にデザイン案を作る。→1クラス（約40名）で5作品に絞る。→3クラス15作品でデザインコンペを行い、投票によりデザインを決定する。」という手順で進めた。投票システムはGoogleフォームを用いて作成した。

個々に制作したデザイン案を鑑賞し合い、お互いにデザインの意図をプレゼンテーションする時間を設けた（写真1）。プレゼンテーションの中では、「色調を全体的に明るくし、遠近感をつけることで、これからの生徒会が明るくなり、勢いづいていくイメージを表しました。」と仲間に生き生きと説明する生徒の姿が見られた。また、仲間の表現のよさについて気付いたことを熱心に伝える様子が見られた。

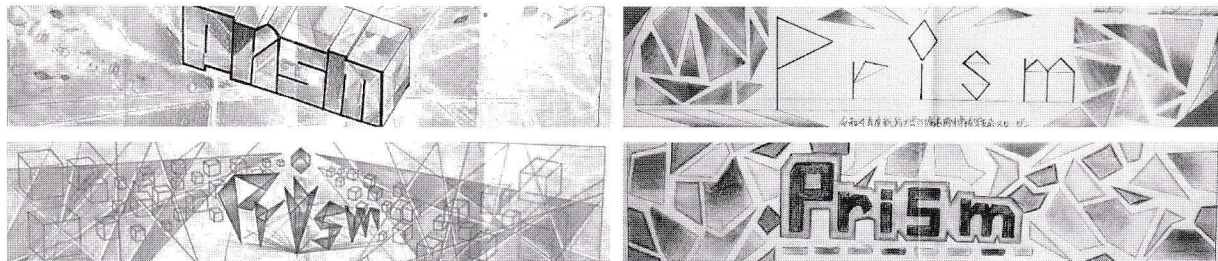


【資料3 生徒のアイデアスケッチ】



【写真1 鑑賞・プレゼンテーションの様子】

＜デザインコンペノミネート作品から＞



⑤ 『Prism』の共同制作（3時間）

3年生全員が制作に関われるように、10人程度のグループを組織し、交替しながら着色を行った（写真2）。生徒たちは、原画をよく見ながら、スポンジや筆を使用して制作を進めた。マスキングテープを活用したため、着色の範囲が分かりやすく制作に苦手意識のある生徒も楽しみながら共同制作に参加することができた。生徒の振り返りでは、「みんなで作り上げた『Prism』の看板はいい仕上がりで感動した。」「少し失敗しても仲間と話し合いながら修正して楽しく制作することができた。」など肯定的な記述が多かった。また、原画に選ばれた生徒は、「制作に取り組む仲間がとても明るい雰囲気、私もその雰囲気の中で制作に参加できたのがとてもよかったと思う。」と述べ、学年全員で取り組んだ共同制作のよさを実感しているようだった。



【写真2 共同制作の様子】

■ 成果と課題

〔成果〕

自らの生活と結びついた題材設定をすることで、目的意識をもち、主体的な学習活動を展開することができた。段階を踏んで進める題材計画を立てることで美術に苦手意識をもつ生徒も意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組むことができた。共同制作や完成作品の展示により生徒会を盛り上げる機運が高まった。

〔課題〕

デザインに思いを盛り込み過ぎる傾向があった。事前に「単純」「省略」「強調」などのデザインの知識・技能面の学習を充実させる必要があった。また、選考段階でよいデザインが埋もれないような配慮が必要である。

# 中越教職員美術展2024 ~第29回~

●会期／令和6年1月31日(水)～2月4日(日)  
 ●会場／長岡市美術センター(長岡市立中央図書館2階)  
 ●主催／新潟県中越美術教育研究会

●後援／長岡市教育委員会 新潟日报社  
 一般財団法人 新潟県教職員厚生財団  
 公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部

No.	題名	出品者
1	雪落妙高	F50 池上 秀敏 元教職員
2	初夏の庭	F30 結城 和廣 元教職員
3	冬じたく	110×90 藤本 市郎 元教職員
4	引潮	106×106 水落 裕子 元教職員
5	魚野川河岸待春	S50
6	魚野川河岸早春	S50
7	時の狭間 2024-1	F15 中嶋 均 元教職員
8	時の狭間 2024-2	F10
9	裸婦	63×51 高井 将行 翠江高
10	裸婦	63×51
11	智・感・情	116×235 阿部 勝則 十日町総合高
12	道路白線と白線電	75×55 三上 祥司 元教職員
13	あの日 君と見た夏空	42×58
14	ムーンダイバー	S50 北村 和則 中越高
15	追憶の街	F50
16	黒い静物	64×46 丸山 一夫 長岡大手高
17	黒い静物	52×60
18	潜る '23	42.4×54.5 永井 愛 長岡・関原中
19	go toward	45.5×33.3
20	収集	25.4×20.3
21	方舟	39.4×50.9
22	いたづらな指Ⅱ+	F6 野村 宏毅 三条一中(再任)
23	Hi	37.8×28.7 大橋 麻耶 長岡・越路中
24	能登・見附島	F8 金澤 健志 近代美術館
25	妙高山	F15 濁川 徳一 長岡・十日町小
26	二十歳の一杯	F30 南雲 学 十日町ふれあいの丘支援
27	校舎と並木	B3 峰村恵利子 長岡・越路中

No.	題名	出品者
28	桜満開NZで一輪車に乗る～2024はくの夢～	F25 竹田 祉薫 長岡・大島中
29	私	19×14×1.9
30	阿賀町豊実菱湯	F20 高橋 淳一 長岡・刈谷田中
31	春がきた	A5 鱒淵紀美子 三条・旭小
32	ゆめ4	A5 目黒 由美 長岡・上組小
33	バラ	A5 五十嵐由美子 燕・小池小
34	New Year's card 2024「寿」	A4 池田 義広 附属長岡中
35	蛙	B6
36	やわらか	40×30 石黒 裕子 元教職員
37	白昼夢 2021	94×47×10 中村富美子 柏崎・東中
38	Bug	38×45 小沼智恵利 ギャラリーーみつげ
39	女学生	40×27×24 堀田 正 北陸学園
40	裸婦	F8
41	a priori 1	65×50 田中 大志 長岡・長岡聾
42	a priori 2	50×50×10
43	コスモス23-1	F50 溝口 敏美 長岡高
44	冬が来る前に	120×90
45	授業実践「〇〇になった私」	180×110 田村 敏宏 柏崎・北条中
46	まり	25×25×35
47	心象スケッチ(ラフ)	30×50×20 村山 裕之 十日町・松代中
48	蕾になりたかった紳士となれなかった淑女	30×40×15組 田中 幸男 見附高
49	夢	40×30×40 齊藤 博文 見附・西中
50	夢(小品)	小品7点
51	ジャングルジム/Mosaic	105×75 中村 信 新潟工業高
52	f-水紋	155×46 津端 朝宏 長岡・黒条小
53	二刀流&ダブル YUUKI	6点 霜鳥 健二 元教職員
54	移り行く面-1	110×100×10
55	移り行く面-2	190×23×25

## 『中越教職員美術展2024』について

中越教職員美術展 実行委員長 村山 裕之



会期: 令和6年1月31日(水)～2月4日(日)  
 会場: 長岡市美術センター

今年は、「記録的な寒波が来る」という予報に心配しましたが、会期中は荒れることなく順調な開催となり、おかげさまで来場者総数は403名を数えました。

今年の出品者数は37名で出品点数は54点と、昨年とほぼ同数の出品があり、今年もバラエティ豊富な作品が並び、見応えのある展覧会となりました。

ここ数年、ご退職された方々からの出品が難しくなる現状があります。今回、石川吉郎先生が毎年描かれていたコンビナートの風景が飾られず、寂しさを覚えました。一方、有望な若手教員たちの出品による新しい風も吹いてくれました。

多くの作品は自身のテーマを追求し、表現の質や表現方法の工夫に努めています。また、新たな表現の領域にチャレンジする先生方も多く、見附高校の田中幸男先生の壁面を使ったインスタレーションや田村先生や野本先生の遊び心あふれる作品をはじめ、今までより更に作品の多様性がみられたのが印象的でした。

今回4年ぶりに、大勢の先生方と美術談義をすることができました。普段の学校では、なかなか専門的な話ができない分、久しぶりに心が解放された気分でした。そんな中、作品のテーマや制作の秘話等を話している先生方は何とも楽しげでした。制作だけに限らず、児童生徒が楽しく学ぶためには、まずは先生が楽しまなければなりません。そんな大切な原点に立ち返った気がしました。今回、出品していただいた先生方の作品を鑑賞しながら、改めてその大切さを感じました。皆様、ありがとうございました。

また、今回は30回展となります。これを節目に、足元の悪い冬季開催を改め、出品しやすく、来訪数が多く見こまれる春季開催へ変更したいと考えています。現段階では、来年一年置いて令和7年5月の開催を考えています。他地区の教職員展がなくなったり、縮小されたりしている中、中越地区はまだまだ継続し、新しい風を吹かせていきたいと思っています。

最後に、展示や搬出にご協力いただいた皆様、事務局のご尽力並びに葵屋画材店様からの多大なるご協力に、心から御礼申し上げます。